

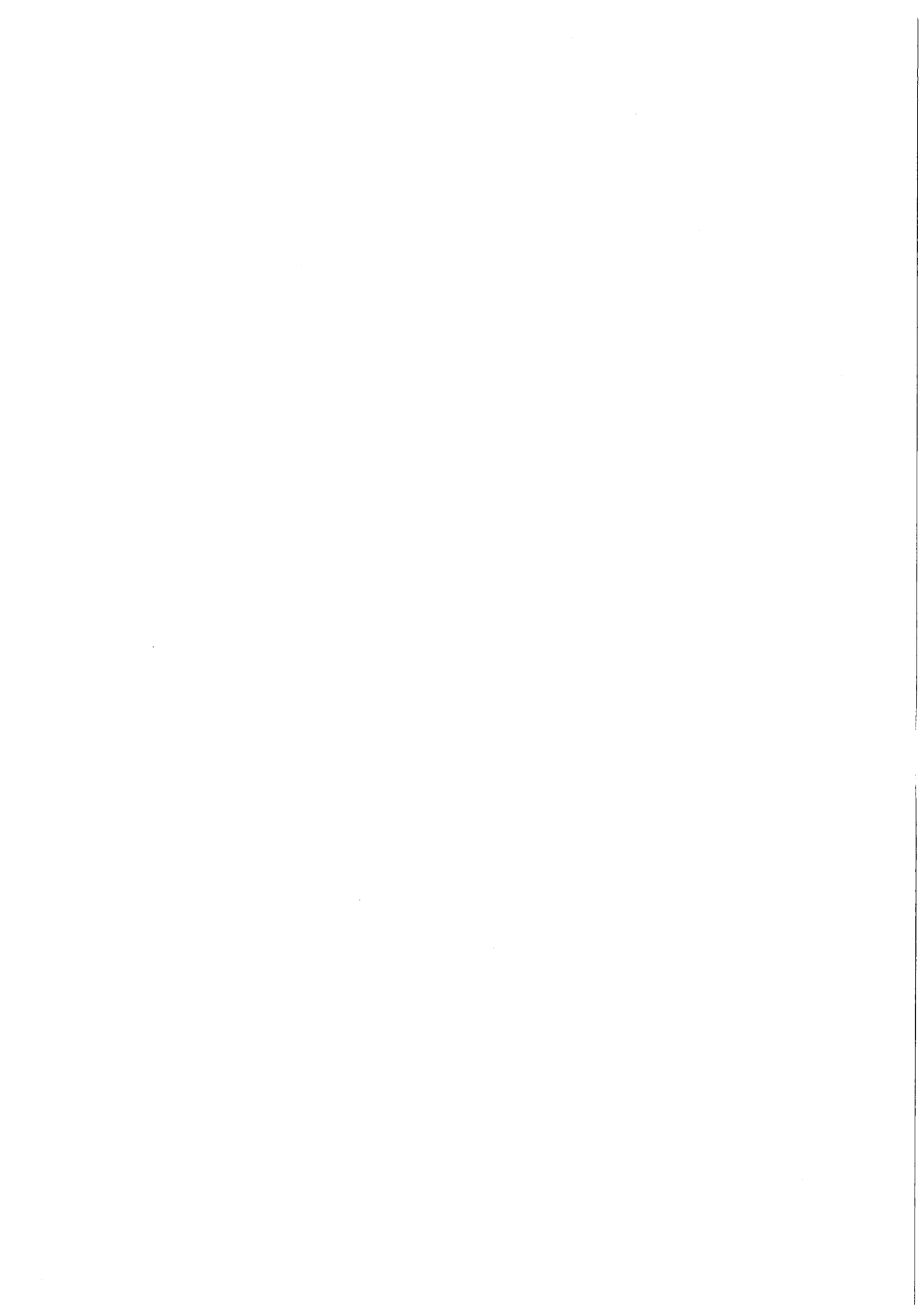
作 山崎 哲史

演出 川端 榎二

NLT新人コメディ作家育成プロジェクト  
NLTダッシュ公演 vol. 1

# 人質に乾杯

劇団NLT上演台本



スタッフ

作

山崎 哲史

演出

川端 楨二

美術

松野 潤

照明

小林 勇樹

音響

小林 史

衣装コーディネート

阿知波 悟美

舞台監督

竹内 一貴

宣伝美術

野澤 孝幸

制作

劇団NLT

〈登場人物〉

オリビエ

イザーク

ルネ

シャルロット

ラウル

ロシュ

バジル

ワルド

カーラ

アルマン

マリア

# 第一幕

開演アナウンス。

暗転。

その中で地響き鳴る。

サッセル。

明かりつく。

南仏・アズナブル城控えの間。

午後、夕方近く。

マリアが飲物等を持って来、置く。

倒れている調度を直し、時計を見て通路より去る。

その通路の奥より声が響く。

オリビエの声　おいイザーク。なかなかいい城じゃないか。夕日に映えて塔が光っている

ように見える。

イザークの声　そうだろ。

イザーク、登場。

イザーク ここなら寛げる。オリビエ。

続いてオリビエが出る。

オリビエ 南フランスのこんな山の中にこんな古城があったなんてな。

イザーク 古城なんてものはどこにでもあるさ。我がフランスだけじゃなく、EUにはね。

オリビエ 確かにプロヴァンスもカタルーニャも城が多い。ローマ帝国の遺跡からアラゴ

ンのイスラムの城までね。確かここから三十キロくらいじゃないか。アメリカの映画スターとかが夫婦で買い取ったっていうミラヴァルの城は。

イザーク ブラッド・ピットとアンジェリーナ・ジョリー。アンジェリーナって引退したんだっけ？

オリビエ そうそう。あそのワイン、

イザーク シャトー・ミラブアル？

オリビエ 結構いけるぞ。だがここは全く知らなかった。この古城マニアのオリビエ様が

知らない城がまだあったなんて。

イザーク ガイドブック片手の古城マニアの限界だな。ここいらじゃ知ってる人は知っている。

オリビエ おお、城と騎士と剣と薔薇、そして淑女。これに勝る男の冥利があるうか。

イザーク 随分冥利が多いな。

オリビエ このオリビエ様が中世に生を受けていたなら、この城は間違いないくオリビエ様のものになったであろうに。僕は遅く生まれすぎた。

イザーク 現在でよかったんじゃないの。君学生の時フェンシング部三日で退部しただろ。

オリビエ ……それにしてもよく知ってたな、こんな山奥の、崖っぷちの道をグルグルグルグル延々上ってこなきゃ押めない城を。

イザーク なかなかのもんだろ。

オリビエ ああ、気に入ったよ。

イザーク そうじゃないよ。僕のドライブテクニック。

オリビエ (又かと) ああ、君の運転技術は大したもんだ。

イザーク だけどな、テクニックだけじゃない。ポニファスだよ。ポニファスのずば抜けた性能のお陰さ。ああ、ボクは漸く生涯の伴侶を見つけた思いさ。一昨日ポニ

ファスが届いた時から、僕の人生は変わった。

オリビエ 車を買ひ替える度に同じ事言っていないか。

イザーク ボニファスは今までの車とは違う。全然違う。あの細い崖っぷちの山道を小石一つ飛ばさずに上ったんだぜ。勿論僕のテクニクをもってしてだけどね。

オリビエ はいはい。名騎手と名馬の組み合わせって訳だ。これが中世ならさぞ名を馳せた事だろうよ。

イザーク いや、あれ程でも、そうか。

オリビエ で、目的は何だ。

イザーク 何が？

オリビエ ここへ僕を連れてきた目的だよ。

イザーク 何の事だよ。それは、君の知らない城を見つけたから見せてやろうと思っさ。4  
言ってみれば友情の証さ。

オリビエ ふうん。

イザーク 何だよ。

オリビエ 本当にそれだけか？ 友情の証なら他に幾らでもあるだろう。この城を見つけたのなら僕に教えるだけでも十分友情の証になる。なのにパリから遙かに離れたここへ僕を連れてきた。何を企んでいる。

イザーク 何も企んでなんかいないさ。分かったよ。ボニファスで遠出がしたかった。  
以上。



オリビエ やっぱりな。友情の証だとか言っ、結局自分が新車を乗り回したかっ、た、って  
事か。

イザーク (うまくごまかせたと) はあ。あれや。

オリビエ シ。又揺れなかつたか。

イザーク ……そちいへばさやきサイレンの音がしていたよな。

その時、カツカツカツという音。

イザーク !

オリビエ 何だ。何の音だ。

イザーク 音? 何の事だ?

オリビエ 音がしただろう。

イザーク さあ、聞こえなかつたけどなあ。

オリビエ したよ。あれは女の足音だ。

イザーク 何で分かる?

オリビエ 分かるさ。コツコツいってた。あれが足音じゃなかったら何なんだ。

イザーク そうじゃなくて、何で女の足音と分かるんだって言ったの。

オリビエ 恋の騎士、このオリビエが婦人の足音を聞き間違えるものか。

イザーク 只の女好きだろ。

オリビエ 女がいるぞ。

イザーク ここには僕達しかいないよ。

オリビエ 何で分かる。

イザーク 今日は特別の許可をもらって入ってるんだ。僕達の貸し切りだよ。

オリビエ 貸し切り？

イザーク ああ、古城マニアの君の為にね。だから僕達以外にいたらそれはアズナ

ブルに巣くう亡霊じゃないのか。

オリビエ (嬉しそうに) 亡霊が出るのか! (辺りを見て)

イザーク さあ? ああ!

オリビエ 何だ。出たのか。

イザーク そうじゃないよ。出るなら夜だろう。(通路の奥へ) まだ早いよ。

オリビエ いいねえ。古城に巣くう亡霊。以前ドイツのホルンベルグ城に泊まったんだが、

あそこホテルになってるだろ。鉄腕ゲッツが首を切られた城だから出るかなと

思ったのに出なかったんだ。

イザーク そいつはよかった。まだ早いよ。

オリビエ 今度はデンマークでハムレットの城に泊まろうかな。

イザーク そいつはよかった。まだ早いよ。

オリビエ 何が早いんだ？

イザーク いや、出るなら深夜城壁の上だろうから、その前には辞したいなって。

オリビエ いいや。今夜は泊まる。なあ、貸し切りの許可をもらったって言ったよな。つまりこの持ち主か役場の管理部門が知らないが、つてがあるって事だろ。今夜泊まれるように交渉してくれよ。

イザーク それは無理だよ。

オリビエ どうして。

イザーク 持ち主が別荘として使ってるんだ。

オリビエ 個人所有か。いるんだよな、大金持ちが。維持費だって馬鹿にならないだろうに。

イザーク かなりの資産家みたいだぜ。

オリビエ へえ。そいつは凄い。ていうより、凄い人物と知り合いになったんだな。

イザーク まあね。

オリビエ どんな人なんだ。

イザーク 綺麗な人でね。

オリビエ 女性か。お近づきになりたいもんだ。

イザーク 駄目だよ！

オリビエ 何で。

イザーク 君は駄目だ。絶対駄目だ。

オリビエ 何ムキになってんだよ。

イザーク あ、いや、君は古城を見に来たんだろ。他の事に目を向けちゃ駄目だよ。

オリビエ 恋は何より大事さ。

イザーク 城よりも？

オリビエ 城持ちのご婦人なら一石二鳥だ。

イザーク 財産目当てなんて感心しないね。

オリビエ 何怒ってんだよ。

イザーク 別に怒っちゃいないさ。

オリビエ ははあん。ははあん。ははあん。

イザーク 何だよ。

オリビエ 惚れたな。

イザーク な、何言ってるんだよ。

オリビエ 漸く君にも春が来たか。凶星だろ。そうかそうか。長年独り身を貫いてきた君

にもついに春が来たか！ その為にここまで新車をぶっ飛ばした。一石二鳥って訳だ。ま、何はともあれ友人として嬉しいよ僕は。

イザーク そういう君はどうなんだ。君だって長年独り身だ。君と僕がこの歳でこうしているだけで友人達は二人ができてるんじゃないかって噂してるんだぞ。

オリビエ くだらない。君は知ってるだろう。僕の恋愛主義を。

イザーク とっかえひっかえか手当り次第。

オリビエ 人聞きが悪いな。真実の愛を求めて続けているだけさ。

イザーク 物はいいようだ。いったい何が真実の愛なんだか。

オリビエ 今まで嘘をつかない女なんて一人もいなかった。

イザーク ？ 誠実そうな彼女も今まで何人かいただろ。

オリビエ 「あなたしかいないわ」なんて言いながらいざベッドに入る段になると「実はね」と始まる。

イザーク 「実はね」？

イザーク、通路が気になる。

オリビエ 「実はね」。その後何が続く？ 「彼がいるの」「夫がいるの」「子供がい

るの」・・・そこで恋は終わり。愛までは到達しないのさ。

イザーク そうは言うが、相手にだって事情はあるだろう。

オリビエ 事情があるのと相手を欺くのは違う。想像するだけでもゾッとするね。子供がいるの。子供がいるの！

イザーク 言われたんだ・・・

オリビエ 一夜の夢と引き替えに子持ちになるくらいなら、一夜限りの相手と遊ぶ方がいいね。君も気をつけることだ。既婚者とかコブつきにひっかからないようにな。イザーク 引かかったんだ。だが僕はコブつきだろうとかまわらないよ。

オリビエ え？

イザーク 愛があれば、それ以外は瑣末な事だよ。

オリビエ 世間はそうはいかないだろう。

イザーク 世間なんか糞くらえだ。

オリビエ いるんだ。

イザーク え？ 何が。

オリビエ 子供が。

イザーク あ。

オリビエ どうもこの話題に同意しないと思ったら。そうか。こここの城持ちのご婦人には

子供がいるんだ。へえ！

イザーク どうして分かる？ 決めつけるなよ。

オリビエ じゃないんだな。

イザーク いるけど・・・

オリビエ ほら見る。まさか、不倫じゃないだろうな。

イザーク 馬鹿を言うな。幾らなんでも。

オリビエ 子供はいるが身分はフリー。僕は嫌だが君は子供はオッケイ。しかしどうも齒切れが悪い。何が問題なんだ。資産家ってところか。恋の相手の財産は多い方がいいに決まっている。勿論君は財産なんかを気にするような男じゃない。だが金なんてと偽悪病を気取っても、困る事にはならない。

イザーク もういいだろ。

オリビエ 一体ご城主様との仲はどこまで進んでいるんだい？

イザーク 只の友人だ。それ以上でもそれ以下でもない。

オリビエ それはない。ここまで来てそんな落ちじゃ世間は誰も承知をしない。少なくとも僕は。

イザーク 君しかないだろ。本当だって。ただ、相談に乗っているだけだよ。離婚した

旦那がよりを戻そうとしつこいそうだね。その相談に乗っているんだ。

オリビエ クライアントか。しかしま、得てしてそうした所から間が縮まるもんだ。まだ可能性はあるぞ。

イザーク もういいだろ。折角来たんだ。これ以上暗くなる前に城の中を見て回ろう。

オリビエ 灯りがあるだろう。それよりさ、どういう人なんだい。

イザーク しつこいな君も。

オリビエ これが黙っておられようか。恋の騎士事不肖オリビエ。友の恋路をほうってはおけぬ。

イザーク ほうっておけよ。僕の事より君の方が問題だ。いつまでも独り身。

オリビエ 僕は当面、一夜限りの遊びだけで十分さ。

イザーク 恋の騎士と気取っているのなら、それに相応しい恋をしろよ。いや、恋を演じてみるよ。

イザーク、通路のほうへ歩み寄り、隠れているルネに一つ肯く。

イザーク 問題は他人ではない、君なんだ。なのにいつも他人の恋の話に首をつっこんでは話を駄目にする。迷惑なんだよ。

オリビエ 迷惑だって？



イザーク そうとも。みんな迷惑しているんだ。

オリビエ みんなって誰だ。

イザーク 友人みんなさ。その証拠に、君に恋愛相談をする奴が一人でもいるか？

オリビエ それは。

イザーク どうだ。誰かいるか？ いないだろ？ ええ？

オリビエ それは・・・

イザーク これに懲りて、少しは自らに目を向け、現実恋の階段を昇る事だ。いいな。

オリビエ ……

イザーク、頃合いよしと見て通路のほうに合図を送る。

ルネの大きな悲鳴。

オリビエ、元氣を取り戻す。

オリビエ ご婦人の悲鳴！

ルネ、登場するとオリビエに向かって突進。

イザーク、ルネを大きくかわす。

ルネ、オリビエに抱きつく。

ルネ 助けて！

オリビエ どうしました。

イザーク ちょっと失礼。

イザーク、二人をそっと押しやる。

オリビエ、ルネ、互いに気をとられているため、押しやられるまま広間中央に進む。

ルネ 助けてください。怖い人達が。

オリビエ 何ですって。どこに。

ルネ 外です。

オリビエ 外？ じゃあ今の悲鳴は？ 直ぐそこで聞こえたと思ったけど。

ルネ あ、それは、あの、ゴキブリが。

オリビエ ゴキブリ？

ルネ ごめんなさい。取り乱してしまって。何がなんだか、ホホホホホ。

オリビエ いえ、かまいませんよ。(イザークに) 外だ。  
イザーク はいはい。

イザーク、去る。

オリビエ 落ち着きましたか？

ルネ ありがとうございます。あの、お名前をおうかがいしても。

オリビエ オリビエと申します。貴女は。

ルネ ルネといます。旅行者ですわ。

オリビエ それで、怖い人達というのは。

ルネ かよわい女の一人旅でしょう？ しつこく言い寄ってくる人がいましたの。断  
っていたらだんだんエスカレートしてきて、山道で車の追いかっこ。

オリビエ カーチェイス！

ルネ 何度もぶつけられて、あたし何度「もう駄目」と思った事か。

オリビエ でも諦めかった？

ルネ かよわい女一人に乱暴を働く人達に屈してたまるものですか。

オリビエ これは勇敢なご婦人だ。それから？

ルネ そのうち車も動かなくなって。弱りはたところここが見えて、急いで逃げ込みましたの。

オリビエ それで追っ手は？

ルネ ここには来なかったみたい。長い事隠れてじっとしていました。あたし、もう怖くて怖くて。

イザーク、戻ってきて二人の様子をうかがう。

オリビエ ご安心下さい。(芝居がかり)不肖このオリビエ。あなたをお守りしましょう。

オリビエ、ルネの手をとり、その手の甲にキスをする。

イザーク ……

ルネ (同じく) まあ、なんて頼もしいお方でしょう。

イザーク ……

ルネ、思わずイザークに手をふろうとする。

その素振りでもオリビエ、イザークが戻ってきたことに気づく。

オリビエ 外の様子はどうだ？

イザーク 異常なしだ。誰もいない。

オリビエ イザーク。こちらのご婦人は大変な目にあわれたようだ。僕達がついてあげなければ。

イザーク そうか。ひとまずここを出よう。僕の車に。

オリビエ いや、出る前にまわりを調べよう。隠れている奴がいたら厄介だ。

イザーク 分かった。僕が。

オリビエ 今度は僕が行こう。違う視点で見ることが大事だ。

イザーク なら二手に分かれて。

オリビエ いや、君はルネさんについていてくれ。なに、すぐに戻る。

オリビエ、颯爽と出て行く。

その様子をうかがうイザークとルネ。

イザーク ……行ったな。

ルネ 行ったわね。

イザーク なんでもヒール鳴らしたりしたのさ。

ルネ だって長話始めそうなんだもの。

イザーク 焦っちゃ駄目だって言っただろ？

ルネ だからちゃんと合図まで待ったでしょ？ それより、あそこまでオリビエを追

いつめる事はなかったんじゃない？

イザーク あれくらいしておかないと感づかれるって。あいつ、余計な事だけは勘が鋭い

んだよ。それに追いつめた方が、姉さんにとってその後の展開、有利だぜ。

ルネ そうかしら。

イザーク でも(笑い)姉さんがオリビエに惚れるとはなあ。

ルネ 何がおかしいの。

イザーク あ・・・今まで二人が顔を合わさなかったなんてね。

ルネ そういう事であるのね。あなたの親友なのに。あなたがオリビエと知り合っ

た学生の頃、ちょうど私は子育てで大変だった頃だもの。

イザーク 成程ね。で、首尾は？

ルネ 上々。いい雰囲気よ。ラウルも心配してくれてたけど、うまくいきそう。

イザーク ラウルが心配？

ルネ 「正攻法で攻める方がいいんじゃない？」って。

イザーク 姉さんに恋人ができるのは賛成なんだ。

ルネ あの子ももう大人だもの。でもラウルが言うのも一理あるわ。大丈夫かしら。

イザーク 何が。

ルネ こんな作り話、いつまで信じてもらえるかしら。

イザーク 大丈夫。騎士道かぶれの芝居があった奴だからこんな話には弱いんだ。今の奴を見たら分かるだろ。例え三文芝居でも喜んで演じるさ。姉さんの望みを叶えるにはこの手が一番なんだよ。だから精々カマトトぶって、イゾルテ姫を演じるんだよ。

ルネ 何だかワクワクするわ。トリスタンとイゾルテ。いい歳して子供の頃に戻った

みたい。

イザーク ホントにいい歳してだな。

ルネ 誰がいい歳よ。

イザーク 今自分で言ったんだろ。

ルネ 人に言われると腹が立つの。

イザーク ……

ルネ なにその顔。

イザーク 子供の頃もよくとばっちり受けてたなあと思っ

ルネ 弟は姉を助けるものと決まってるじゃない。大丈夫。こっちが済んだら、そっ  
ちも手伝ってあげるわよ。

イザーク 僕？

ルネ そっちも好い人が見つかったんでしょ。任せなさい。全力で協力するわ。

イザーク 謹んで辞退させて頂きます。

ルネ 何遠慮してんのよ。

イザーク 遠慮じゃないったら。そんな事より、オリビエとうまくいったらどこか遠くに  
旅行にでも行っておいでよ。

ルネ ハネムーン！（カマトトぶって）やだ。どうしよう。ドキドキしちゃう。

イザーク ……

ルネ 何。

イザーク いえ。

ルネ あなたが言ったのよ。カマトトぶれて。

イザーク こんな間近で目の当りにすると。

ルネ 何ですって！

イザーク いえ。凄い効果です。何の話だったけ。そうだ、ハネムーン！ 船の旅なんか



いいんじゃないかな。

ルネ  
船？

イザーク  
邪魔する者のいない船の上で愛を語り合う日々。朝は目覚まし時計に悩まされる事なくゆっくり目覚め、昼はデッキでのんびり日光浴。夜は楽団が演奏するモーツァルトを聴きながらワインを傾ける。それになんといっても船の旅は長い。その上他の場所には行きたくても行けない。つまり観光であちこち見て回るより二人っきりで過ごせると思うんだ。

ルネ  
退屈しないかしら。あの人が行きたい場所を選んだ方がよくない？

イザーク  
そしたら全部お城になっちゃうよ。全世界城巡り。(棒読みで) まあ楽しい。

ルネ  
船にするわ。

二人  
うん。

ルネ  
ね。船の上でライバルが現れたらどうしようかしら。

イザーク  
姉さんに勝てる人なんていやしないさ。

ルネ  
そう？

イザーク  
・・・よし。そうと決まれば。

オリビエ、戻ってくるが立ち止まって二人の様子をうかがう。

イザーク 船旅に決定。どこがいい？

ルネ 地中海一周？ いいえ。エジプトなんてどうかしら？

オリビエ 個人的にはアジアがおすすめですね。

ルネ アジア……

イザーク いいかも、って、オリビエ！

ルネ まぁ！ どこから聞いてらしたの？

オリビエ ほんのちょっと前からですよ。ご安心を。

オリビエ、ルネに向かって一礼。

オリビエ ちょっと失礼。

オリビエ、イザークを引っ張ってルネから離す。

オリビエ 随分親しそうじゃないか。

イザーク 何だよいきなり。

オリビエ 君には意中の人がいたんじゃないか。もう他のご婦人に手を出しやがって。

イザーク 誤解だよ！

オリビエ 君の想いもあやしいもんだね。

イザーク ははぁん。君の方こそ。あのご婦人に一目惚れ？

オリビエ こ、この雰囲気を楽しんでいるんだ。困ってるご婦人を助けるのは当然の義務だ。

イザーク 義務だけかなあ？

オリビエ 五月蠅いな・・・

ルネ あの、外の様子は。

イザーク そうだ。どうだった。

オリビエ 異常なしだ。

イザーク じゃあ早いとこ去るとしよう。残念だろうけど、ここの見物はまた今度だな。

オリビエ 残念なものか。

外から大きな衝突音。

オリビエ 何だ？

イザーク 君はここに！

イザーク、飛び出していく。

ルネ 何の音かしら。凄い音だったわ。

オリビエ まさか、奴らが。

ルネ 奴ら？

オリビエ 貴女を追っていた乱暴者ですよ。

ルネ そんな人は、

オリビエ え。

ルネ あ。まあ恐い。

オリビエ 何て事だ。きっと貴女がここにいるのを知って脅しをかけてきたんだな。大丈

夫。貴女の事は僕が守ります。(ルネの手を握る)

ルネ まあ。

オリビエ こうしてはいられない。僕も様子を見てきましょう。

ルネ 待って下さい。あの、あの、一人になるのは。

オリビエ 大丈夫です。すぐに戻ります。ここを動かないで下さいね。

オリビエ、出て行く。

ルネ

(握られた手を見つめながら) いい雰囲気。アジアに船旅。堪らないわ。

ルネが握られた手を見つめていると、オリビエとイザークがシャルロットを抱えて戻ってくる。

イザークは鬱陶しく泣いている。

ルネ

まあ。その人、どうしたの？

オリビエとイザーク、シャルロットを慎重に横たわらせる。

オリビエ 表で。

イザーク ボニファス。

ルネ ボニファスというのその人。え。ボニファス？

イザーク 僕のボニファス。

オリビエ ボニファスというのは、こいつの愛車です。

イザーク ボニファス。

オリビエ 愛車に必ず名前をつける奴でして。

ルネ 知ってるわ。前はゴンザレスだったもの。

オリビエ そうそう、ゴンザレス。って何で知ってるの。

ルネ あ、さ<sup>ず</sup>聞き捨て。それよりその人は？

オリビエ まだ。車の中で気絶していたそうです。

ルネ ボニファスの中で？

オリビエ いえ。ボニファスに刺さった車の中で。

ルネ 刺さった？

イザーク ボニファス。

ルネ どういう事ですか？

オリビエ どうやら表から凄い勢いで入ってきて、その俣イザークの車の横っ腹に突き刺

さったようです。

イザーク ボニファス。

イザーク、泣きながら出て行く。

オリビエ 車が恋人みたいな奴でしてね。

ルネ そうなのよ。

オリビエ え？

ルネ 名前までつけるなんてねえ。本当に車を大事になさってる方ですのね。

オリビエ え、ええ。そうなんですよ。あれはしばらく役に立ちませんね。

ルネ そうでしょうね。

オリビエ 車も駄目になったし、どうしたものか。

ルネ え。駄目になったんですか。

オリビエ 車に車が刺さっていますからねえ。この人が無事なのが不思議なくらいですよ。

シャルロット、気がつく。

シャルロット（以下、シャル） 誰！

シャルロット、慌てて身体を起こそうとする。

オリビエ あっ。じっとして！ 動かない方がいい。大変な事故でしたから。

シャル 事故？

ルネ どこか痛いところはありませんか。

シャル 特には。

ルネ 今は痛くなくても本当はひどい怪我という事もあるわ。

シャル 早くここを離れないと。

ルネ 今は大人しく。ね。

シャル 私追われているんです。

オリビエ 貴女も？

シャル さらわれそうになったんです。

ルネ なんですって。

シャル 早く逃げないと。

オリビエ 大丈夫。外には誰もいませんでしたよ。

ルネ いったい誰に。

シャル しつこいやな男がいるんです。言い寄るのを断っていたら段々エスカレートしてきて。

オリビエ どこかで聞いた話のような。同じ奴かな？

ルネ そんな馬鹿な。

オリビエ え？

ルネ いえ。(シャルロットに) その男、いきなり現れたの？



シャル　いいえ。以前から言い寄ってきて。お馬鹿なくせに、お金持ちなのを鼻にかけて、みんなに嫌われてるんような男です。

ルネ　ね。私のは違うわ。

シャル　ですかね。それにしても世の中にはけしからん輩が多すぎる。(シャルロットに)それで、言い寄られてどうなっただんです？　まさかさらわれそうに？

シャル　はい。

ルネ　なんて事！

オリビエ　全くけしからん！

シャル　慌てて車で逃げたんですけど、こんな山の中まで追ってきて。

オリビエ　カーチェイス！

シャル　何度もぶつけられて、何度も「もう駄目」と思いました。

オリビエ　でも諦めなかった？

シャル　あんな気持ち悪い男なんかには負けたくありません。でも、車がいう事をきかなくなってきた。そんな時ここが見えたんです。必死で逃げ込んで・・・

オリビエ　本当によく似た話があったもんだ。

ルネ　後半はね。

オリビエ　ん？

ルネ 嫌な男がいるものですわあ。

シャル あの、あなた達は。

オリビエ ああ。

オリビエ、シャルロットの手をとる。

オリビエ 勇気あるお嬢さん。

ルネ ま。

オリビエ 宜しければお名前をお教え頂けますか？

シャル シャルロットです。

オリビエ お見知りおきを。こちらのご婦人はルネ。私はオリビエ。是非、貴女のお力にならせて下さい。

シャル はあ・・・あの、私の車は？

オリビエ 貴女の車は、表で僕の友人の車に突き刺さってます。二台とも駄目でしょうね。  
シャル 他に車は？

オリビエとルネ、顔を見合わせてから首を横にふる。

シャル　　そうですか・・・どうしましょう。早く逃げないと。  
ルネ　　ここまで追ってくる？

シャル　　粘着気質な男ですから。トリモチみたいに。  
ルネ　　いっやっなっ男ねえ。

オリビエ　　聴いてると吐き気がするなあ。

シャル　　あの男がつきまとうお陰で私、もう二年も彼氏がいらないんです。

ルネ　　まあ！ 可哀想に。何て事でしょう！

オリビエ　　ご安心を。お二人ともこのオリビエがお守り致します。どうぞお任せあれ。  
シャル　　無理です。相手は一人じゃありません。子分が必ずついていきます。

ルネ　　オリビエ。多勢に無勢は不利よ。早くここを出る手段を講じましょう。

オリビエ　　では、電話で助けを。

ルネ　　駄目よ。ここに電話はないの。

オリビエ　　電話がない？ よくご存じで。

ルネ　　・・・あなたがくる前に見てまわったもの。携帯も山奥で通じないみたい。

オリビエ　　僕より先に来てたんですか？

ルネ　　イザーク、さんに聴きました。見て回ったって。

オリビエ　　ならヒッチハイクを。

シャル あいつらに見つかったら。

オリビエ 貴女はここに隠れていて下さい。私達の内の誰か一人がヒッチハイクにいきましよう。そして車を拾ったら、ここではなく近くの町へ送ってもらおう。街に着いたら直ぐにタクシーやパトカーを都合して引き返せばいい。

でも誰が？

オリビエ 僕かイザークが。あなた方はここに隠れているのが一番だろうし。そうとなれば、あ、しまった。イザークは役に立たないか。

シャル イザーク？

オリビエ もう一台の、車の持ち主です。

ルネ 確かに今は役に立たないわね。私が行きましようか。

オリビエ いや。君を追ってる奴らもいる。となると動けるのは僕しかいない。

ルネ オリビエ。もう私が出て大丈夫よ、きっと。イザークもここでこの人と隠れている分には問題ないんじゃないかしら。私達二人で行くというのは、どう？

オリビエ 君はなんて勇敢なんだ。よし、シャルロットさん。それで構いませんか？

シャルロット、逡巡して二人の顔を交互に見るが、やがて肯く。

シャル 分かりました。よろしくお願いします。  
オリビエ ちょっと待って。イザークを呼んできます。

オリビエ、出て行く。

ルネ、その背中を見つめている。

シャルロット、間を埋めるように声をかける。

シャル あの。とんでもない事に巻き込んで申し訳ありません。

ルネ え？ いいのよ。なんだか冒険みたいで楽しいわ。

シャル 冒険？

ルネ あ、ごめんなさい。不謹慎だったわね。

シャル いえ。あの、ご夫婦ですか？

ルネ そう見える？ 嬉しい。

シャル 違うんですか？

ルネ まだ、ね。

シャル じゃあ恋人？

ルネ それもまだ。

シャル  
え？　じゃあ？

ルネ  
これからそうなるのよ。

シャル  
はあ？

ルネ  
素敵でしょう、あの人。

シャル  
はあ・・・

ルネ  
颯爽としていて、男らしくて。まるで騎士みたい。

シャル  
ちよっと時代錯誤な感じが。

ルネ  
時代錯誤？

シャル  
（慌てて）そこが素敵ですよね！

ルネ  
でしょう。

シャル  
・・・あの、貴女も追われているって？

ルネ  
気にしないで。

シャル  
気にしないでって、どういう事ですか。

ルネ  
これにはね深い事情があるの。だから私の事は大丈夫。

シャル  
はあ？

ルネ  
私の事より貴女よ。そんなにしつこい奴に追いかけられてるの？

シャル  
ええ。もう、ネチネチネチネチ、ホントにとりもちみたいにしつこくて、お金

ルネ 持ちなのを鼻にかけてる嫌われ者です。

シャル そう言ってたわね。聞くだけでも嫌な男ね。

ルネ おまけにお馬鹿で。ルネさんも、見たら一目で吐き気がすると思います。

ルネ 貴女も大変ねえ。でも、追いかけるのは『美人』の証拠よ。自信を持ちなさいな。

シャル そうですか？

ルネ そして、追いかけるのは『いい女』の証拠。

シャル いい女。

ルネ 助けてもらうのは『ヒロイン』の証拠なの。よく覚えておきなさい。試験に出しますからね。

シャル はい先生。覚えておきます。

二人 (笑う)

ルネ 昔はね。いたずらっ子をよく叱ったものよ。

シャル 絵が思い浮かびます。

オリピエがイザークを引きずって戻ってくる。

イザークはなおも泣きじゃくっている。

イザーク ボニファス。

オリビエ ちゃんと直してやるから！ 二人とも隠れて！

ルネ どうしたの？

オリビエ 表に誰か来た！ 早く！

ルネ シャルロット。こっちへ。

シャル はい。

ルネ、シャルロットの手を引いて通路の方へ去る。

イザーク ボニファス。

オリビエ 黙れ！

オリビエもイザークを引きずって後を追う。

入れ替わりにバジルとワルド、周りを見回しながら登場。

バジル おかしいな。誰もいない。

ワルド 隠れているに決まってるだろ。探せ。



バジル 何か出そうでいやだなあ。

ワルド 安心しろ。何か出たら見捨ててやるから。

バジル 勘弁して下さいよ。俺、そういうの苦手なんですよあ。

ワルド ぼっちゃんもそういうの苦手だ。下手な事言いなよ。

バジル 「いませんでした」って言っちゃいませんか？

ワルド いいから探せ。二手に分かれるぞ。お前はあっち。

バジル いやですよ！一緒に動きましょう。

ワルド あんな。相手は女一人だぞ。

バジル もう一台車があったじゃないですか。他にも誰かいたら。

ワルド いるだろうな。

バジル いっぱいいたら。

ワルド、バジルの肩に手を置く。

ワルド 頑張れ。

バジル そんなあ。

ワルド じゃあ俺、こっちな。(行こうとする)

バジル 待って下さいよ！ どんな奴がいるか分からないっていうのに。  
ロシュ (声のみ) 安心しろ。

ロシュ、登場。

バジル ぼっちゃん！ (ワルドに頭を叩かれる) あ痛！

ワルド ロシュさん。

バジル 自分も「ぼっちゃん」って言ってたくせに。

ロシュ あんない車に乗ってる奴に物騒な奴はいない。

ワルド その根拠は？

ロシュ 分からないのか？ 品だよ。

バジル 品？

ロシュ そう。品だ。まあお前達に分からないのも無理はない。

バジル ですよ。 (ワルドに頭を叩かれる) あ痛！

ロシュ 人数もちょっと考えれば分かるだろう。いても五人。それくらいなんとかしろ。

バジル そんなあ。

ロシュ 外はいい。中を探せ。行け。

ワルド はい。  
バジル へえい。

ワルドとバジル、通路に出て行く。

ロシュ まったく頼りない奴らだ。

オリビエ、忍び足で出てきてロシュの様子をうかがう。

ロシュ それにしてもここに逃げ込むとはなシャルロット。ちょうどいい。ここが初夜の寝床になる。

オリビエ、背後からロシュに忍びより、手を銃の形にして背中につきつける。

オリビエ (銃をつきつけた振りをして) 手をあげろ。

ロシユ、ビクツとしたあと、ゆっくりと両手をあげる。

オリビエ そうだ。大人しくし給え。

ロシユ (平静をよそおって) 誰だ。

オリビエ 金持ちぼっちゃんが不用心だな。あ、動かないで。

ロシユ 身代金目当てか。

オリビエ いいねえ。幾ら請求しようか。君のお父さん、幾らまでなら出すかな。

ロシユ (精一杯格好をつけて) 馬鹿な事はやめるんだ。

ロシユ、間を置かず一転して見栄も外聞もなく情けない様子で土下座する。

ロシユ ごめんなさい！ 撃たないで！ 何でもしますから命だけは！

オリビエ (手を背に隠し) 動かないでと言った筈だけど。

ロシユ (慌てて立ち上がる) はい！

オリビエ あ、やっぱりひざまずいて。

ロシユ (急いでひざまずく) はい！

オリビエ あ、やっぱり立って。

ロシュ (慌てて立ち上がる) はい!

オリビエ 面倒くさいから、やっぱりひざまずいて。

ロシュ (急いでひざまずく) はい!

オリビエの手招きで、イザーク、ルネ、少し遅れてシャルロット、出てくる。

オリビエ あ、その仮腹這いになってくれる?

ロシュ (急いで腹這いになる) はい!

オリビエ あ、目を瞑ってくれる?

ロシュ (目を両手で覆う) はい!

オリビエ 今、目隠しをするから大人しくしてるように。

ロシュ はい!

オリビエ身振りで要求し、ルネがスカーフを出し、目隠しする。

オリビエ、かたわらに膝をついて、銃と思わせた指先を背に当てる。

オリビエ さて。何の目的でここに来たのか聞かせてもらおうか。

ロシュ それは。

オリビエ 美人に釣られて飛び込んできた。

ロシュ はい、そうです。

オリビエ こんな山奥にのこのこ来るなんて不用心だなあ。おかしいと思わなかったのか。

ロシュ それはどういう・・・

オリビエ 貴様は罠にかかった、という事さ。

ロシュ まさか。

オリビエ ここで何をするつもりだったのかな。

ロシュ それは・・・

オリビエ それは？

ロシュ ここで。

オリビエ ここで？

ロシュ ある女を口説こうと。

オリビエ 口説く？ そんな平和な様子ではないようだけどねえ。

ロシュ 物にしよう。

オリビエ 物に。

シャルロット、怒ってロシユに歩み寄ろうとするがイザークとルネが止める。

オリピエ 女性を物扱いとは感心しないね。力尽くで手に入れようとした訳だ。

ロシユ それは・・・

オリピエ 正直に答えた方がいいんじゃないかな。(押しつける)

ロシユ はい！ 力尽くでもものにしてしまいました！

シャル 今まで何人の子をもてあそんだのよ！

ロシユ その声はシャルロット！（立とうとする）

オリピエ 立つな！

ロシユ (情けない声で) はい！ シャルロット？ その声はシャルロットだね？ 違

う。違うんだ。誤解だよ！ 僕は君だけを。

シャル 力尽くでもものにしてたんでしょ？ 私で何人目なのかしら！

ロシユ 信じて！ お願いだから！

オリピエ 見苦しいね。さあシャルロット。この坊ちゃんをどうします。

シャル 女の敵。只じゃすまさないからね。

ロシユ ひっ。

ルネ そうね。当然罰を受けてもらわなきゃね。恥ずかしくて外を歩けなくなるよ。

なのがいいんじゃない？

ロシユ 身代金目的じゃないのか？

オリビエ そうだったかな。

ルネ お金もちなんですよ。それよりもっともって恥ずかしい罰の方がいいよ。

シャル 裸で街角に吊すとかどう？

ルネ いいわねえ。

オリビエ ご婦人は怖いねえ。

ロシユ 命が助かるならなんでもいいです。

イザーク ねえ。勘弁してあげようよ。

オリビエ なんです。

イザーク 彼は僕の車を褒めてくれた。車に分かる人間に悪い人間はいないよ。

一同 はぁ・・・

シャル こいつが悪人なのは分かるでしょう？

イザーク だって、ボニファス。

オリビエ そうだ。こいつの車を借りよう。それで下山すればいい。君、車の鍵を渡して  
もらえるかな。



ロシュ 車についた俵です。

オリビエ ありがとう。では、荷物を積み替えてきてくれ。

イザーク 分かった。

イザーク、玄関へ行く。

オリビエ さて。立ってもらおうか。念の為に言っておくけど。

ロシュ 大人しくします！

オリビエ いい心がけだ。じゃ、行こうか。

ロシュ はい！

バジル、ワルド、通路から入ってくる。

バジル ぼっちゃん！（叩かれ）痛。

ワルド ロシュさん！ お前達何者だ。

バジル あ、あの女。

ロシュ お前達！ 僕を助けろ！

バジル はい！  
オリビエ あ、そういう事言っちゃう？

オリビエ、指先でロシユの背を押す。

ロシユ お前達！ この人達の言う事を聞け！  
バジル はい！  
ワルド 馬鹿、助けるぞ。  
バジル はい！  
ロシユ 馬鹿、動くな！  
バジル はい！  
ワルド 馬鹿！  
バジル はい！  
オリビエ 一つ聞くけど。  
バジル はい！  
オリビエ 君、今、どうしたらいいか分かってる？  
バジル はい！

ロシユ バジル? 分かってるよね?

バジル ぼっちゃんを助ける為に助けません。

ロシユ ええっと、うん当ってる、かな。

オリビエ あってるあってる。そっちのおにいさんも動かないように。

ワルド 分かった。

オリビエ さ、行こうか。

シャル あの。

オリビエ どうしました?

シャル あちらに。(と、玄関の方を指さす)

イザーク、両手をあげて一歩入ってくる。

イザーク オリビエ。

オリビエ こういう時に名前呼んだら駄目だろ。どうした。

イザーク ごめん。

オリビエ 何が。

イザーク、入ってくる。

その後ろからピストルを構えたカーラ、入ってくる。

カーラ どうか存じませんがご機嫌よう。うちの坊やを開放して下さいます？

シャロ あ。

ロシュ カーラ？

カーラ ワルド。あなたがついていながらどういう事。

ワルド すみません。

バジル 俺もいますよ。

ルネ きつそうな女ね。

シャロ この男の尻ぬぐいをしてまわってる氷の女です。

カーラ 聞こえましたよ。誰が氷の女よ。せめてクールビューティーと言って頂戴。

バジル 自分で言ってる。(叩かれ)痛。

カーラ ロシュ様を放しなさい。左もないと。

オリビエ 人質がどうなるか分からない、かい？ こちらにも人質はいるんですよ？

ま してや僕の友人は、ご婦人の為なら我が身をかえりみない程の好男子だ。それはこの僕が保証しよう。

イザーク オリビエ君？

オリビエ 貴女のような美人の手にかかるのなら彼も悔いもないだろう。

イザーク 勝手に決めないでくれるかな。

ルネ ああ、イザーク！ あなたの犠牲は忘れないわ！（泣きまね）

イザーク ちょっと。

ルネ、肘でシャルロットを押し続けて行くように促す。

シャル え、あ、ええ。（泣きまね）イザークさん、なんて立派な方なんでしょう！

ルネ この子やるわね。

オリビエ そんな訳でその人質は無意味だ。大人しく僕達を通してくれると嬉しいんだが。

カーラ 口から生まれたような人ね。

オリビエ お褒めにあずかり。

カーラ 楽しかったわ。でももう飽きました。いい加減ロシュ様を放して下さいな。

オリビエ 分からないお嬢さんだな。

カーラ 銃、持っていませんよね？

ロシュ 持って、ない？

オリビエ さあ、それはどうかな？

カーラ お友達から聞きましたよ？

イザーク ごめん。

ロシュ そうか。銃はないのか！

ロシュ、声を頼りにカーラの方へ逃げる。

オリビエ、それを追おうとするが、カーラが銃口を向けて牽制する。

ロシュ、目隠しのスカーフを剥ぎ取ると、カーラの背後にまわる。

ロシュ カーラ、助かった。

カーラ ロシュ様。ここへ何をしに？

ロシュ それは。

カーラ 聞かなくても分かります。火遊びもいい加減にしなさい。

ロシュ (頬を寄せて) 僕が遊びたいのはお前だけだよ。

カーラ (ピシヤリと) もう子供じゃありませんよ。さあ、形成は逆転ね。

オリビエ ぼっちゃんを放したんだ。僕の友人を返してくれ。

カーラ この状況では取引になりませんね。

オリビエ 何の取り引きだ。大体僕達はあんた達と何の関係もないんだぞ。

カーラ ではどうしてうちのぼっちゃんを押さえつけていたの。

オリビエ それは、このシャルロット嬢を追い回してたからじゃないか。嫌がる彼女を力づく出ものにしたんだぞ。

カーラ それはホントですか。

ロシエ だってシャルロットが欲しかったんだもん欲しかったんだもん欲しかったんだもん。

カーラ、ロシエの頬をぶつ。

一同 !

ロシエ ウウ。(泣く)

カーラ、ロシエの頭を抱き、

カーラ そんなにこの子が好きなの。

ロシエ うん・・・

カーラ 今回だけですよ。(放し)さ。その子を渡して頂戴。  
オリビエ 何なんだ。

カーラ あなた達の言うように私達とあなた達は元々関わりがないわ。その子を離して  
ここを出ていくなら何も問題はないわ。

オリビエ そんな事できる訳がないだろう。

カーラ なら残念な関わりにならざるをえないわね。

オリビエ あんたはこの子の何なんだよ。

ロシエ カーラは親父とママが離婚して以来僕を育ててくれたんだぞ。  
バジル だからこんなのに育ったんだな。

カーラ、おもいっきりバジルの頬をぶつ。

バジル 痛い痛い！

ロシエ 散々怖い思いさせやがって。おい。痛い目にあわせてやれ。

バジル 今俺が痛い目に、

ロシエ 五月蠅い。行け！



バジルとワルド、オリピエ達に歩み寄る。

オリピエ おいおい。こっちは三人だよ？

ロシユ こっちは人質と銃だ。逆らったらどうなるかくらい分かるだろうが。

ルネ か弱い女性に手をあげるつもり？

ワルド すみませんね。命令なもので。

オリピエ 分かった。ご婦人方の分は僕が引き受ける。乱暴な真似はやめてもらえないか。

ロシユ 余計な口をはさむな。人質がいるのを忘れるなよ。

シャル ね。いやな奴でしょ。

ルネ 全くね。(カーラに)あなたが育てたのなら責任持って更生させなさいよ。

ロシユ 馬鹿<sup>な</sup>子ほど可愛いって言うんだよ。

ルネ 自分で馬鹿と認めたわ。

バジル ね、馬鹿だろ。

ロシユ、バジルを殴る。

バジル

痛い！

ロシエ さあ覚悟しろ！

突然、明かりが消えて暗くなる。

ロシユの声 え？ あ痛！

カーラの声 誰？ あっ。

ラウルの声 こっちへ！

イザークの声 その声は。

ラウルの声 早く！

ロシユの声 明かりだ。明かりをつける。何をタモタモしてるんだ。

ワルドの声 モタモタでしょ。

ロシエの声 いいから早く！

カーラ、ペンライトを懐から取り出してつける。

ロシユの声 流石はカーラ。頼りになる。スイッチを。あ痛。又あ。

バジルがスイッチをみつけて明るくなる。  
ロシュ、頭を抱えてしゃがみこんでいる。  
オリビエ達四人がいなくなっている。  
ワルド、通路の方を覗きこむ。

ロシュ 痛たたた・・・

カーラ ロシュ様？ 大丈夫？

ロシュ くそっ！ 二発殴っていきやがった。

ワルド (目を逸らす)・・・ (つまり二発目はワルドであった)

カーラ 探しなさい！

ワルド お前はこっちを探せ。俺は外を見てくる。

ワルド、出て行く。

バジル ああっ！ 俺もそっちに行きますってば！

ワルド、戻ってきてバジルの頭を叩く。

バジル あ痛あ。

ワルド 行け。

バジル はい……

ワルド、出て行く。

バジル、とぼとぼと通路へ出行こうとし、やっぱりワルドの後を追う。

カーラ、出て行こうとする。

ロシュ おい、どこに行く。

カーラ 会長にご報告を。

ロシュ え。ちょっと待って。親父には。

カーラ 仕事よ。ここで大人しくしてなさい。

ロシュ、カーラを後ろから抱きしめる。

ロシュ 頼むよ。僕とお前の仲だろう？ 僕になんでも教えてくれたのはお前だぞ。そ、

何でも。

ロシユ、カーラにキスしようとする。

カーラ

(呆れるもしようがないわねと) ぼうや・・・

ワルドとバジル、戻ってくる。

ロシユ、戻ってきていたワルドとバジルの視線に動きが止まる。

カーラ

何。

ワルド

どっちがどっちに行くかでまだもめてまして。

カーラ

さっさと行きなさい！

ワルド・バジル

はい！

ワルドとバジル、慌てて出て行く。

ロシユ

見られて減るものじゃないし。いいじゃないか。

カーラ、ロシユに強烈なビンタ。

ロシュ あ痛ーっ！

ロシュ、派手に倒れる。

カーラ 教育のし直しだわ。

跪き頬を抑えてカーラを見上げるロシュと、腕を組んでふくれている  
カーラの図。

暗転。

## 第二幕

### 第一場

同じ場。前場の数分後。

イザーク、ルネ、シャルロットが出てくる。

イザーク よかった。もういない。

三人 (ほっとする)

ルネ イザーク、大丈夫？

イザーク 大丈夫大丈夫。危なかったな。

シャル あの人、どなたですか？

イザーク あの人？

シャル 今、助けてくれた人です。

オリピエ、ラウルと共に入ってくる。

オリビエ 他に出口を探さなければ。

ラウル すみません。咄嗟で、つい地下道に誘導しちゃって。

イザーク 袋小路なんだから。もう終わりかと思っただ。引き換えしてきてよかった。

ルネ これだけ大きな城ですもの。どこかで迷ってるのよ。ラウル。

ラウル ママ。

シャル ママ？（と言うより早く）

ルネ （打ち消すように強い口調で）ラウル！

ラウル ルネ・・・さん。

オリビエ ママ？ お子さん？

ルネ 違いますの。この子ね、一番下の弟です。小さな頃から私が面倒みていたもので、私の事をママって呼びますの。

オリビエ ほほう。

ルネ 私ね、十代の時から子持ちのようなものでしたの。ちょっとラウル。誤解されるでしょ。あれほど外ではルネ姉さんって呼ぶように言ったじゃない？

ルネ、オリビエから見えない角度でラウルに必死の目くばせ。

ラウル、溜息をつきそうになりながら察して話にのる。



ラウル ごめんね、姉さん。気をつけるよ。

ルネ 素直ないい子なんですけど、こればかりが問題で。

オリビエ はぁ・・・

イザーク ラウル。どうしてここに。

オリビエ 知り合いかい？

イザーク 甥っ子、じゃなくて歳の離れた弟、

オリビエ 弟？

ルネ、一早く足を踏んで黙らせる。

シャル 弟さんなの？

ラウル あはははははは・・・

オリビエ イザーク？

イザーク いや、舌を噛んだんだ。あ痛たたた。

オリビエ で、今、なんと言っただんだ？

イザーク 歳の離れた弟だよ、って言おうとしたんだ。

オリビエ、こめかみに指先を当てて考え込む。

オリビエ　ちょっと待て。イザーク、君、兄弟はいない筈だろ。いや、確か昔聞いたのは、イザーク　実は腹違いの弟がいたんだよ。

オリビエ　で、ラウル君は、ルネさんの弟でもあるという。

ルネ　ええ。ラウルは私の弟です。

オリビエ　じゃあ君達二人は姉弟という事になるじゃないか。

イザーク　そ、そうだね。

ルネ　そういう事になりますわね。

イザーク　はじめてお会いします姉さん。

ルネ　ああ、弟よ。

イザーク　姉さん！

ルネ　弟よ！

イザークとルネ、しらじらしく抱擁しあう。  
オリビエ、不審な目つき。

オリビエ　　そういえば君、前に姉がいるって言ってたな。それがルネさん？　何で初対面の他人のような振りをして、

イザーク　　違う違う。あれはホントの姉。こっちは初対面の腹違いの姉、という事が今判明した姉。

ルネ　　あなただったのね。ママがパパと別れた後生んだ子供っていうのは。

イザーク　　会いたかったよ姉さん。

ルネ　　私もよ。

二人、抱き合い。

二人　　(ラウルに) 弟よ。

ラウル　　(やられてられないような顔で) 姉さん・・・兄さん・・・

オリビエ　　ちょっと待てイザーク。君のご両親は・・・

イザーク　　何も言うなオリビエ。どんな家にも秘密の一つや二つあるものなんだ。

イザーク、遠い目であらぬ方を見やる。

オリビエ、つられて同じ方を見る。

ルネとシャルロットも同様に。  
呆れたラウル、咳払い。

イザーク あ、ああ。ラウル、すまん。まあ、積もる話は後にしようか姉さん。

ルネ そうね。そうしましょう。

イザーク ラウル、こちら、僕の友人でオリビエだ。

オリビエ 初めてお目にかかる。よろしく。

ラウル ラウルです。お見知りおきを。

オリビエ、ラウル、握手。

オリビエ 改めてありがとう。助かったよ。

ルネ それでこちらはシャルロットさん。

ラウル (握手を求めつつ) はじめまして。

シャル (手をとって) 助かりました。ありがとうございます。

ラウル どう致しまして。

シャルロット、熱いまなざしでラウルを見つめる。  
ラウル、ややたじろぎながらも笑みを返す。

イザーク　ところでラウル。君どうしてここに？

ラウルとシャルロット、慌てて手を放す。

ラウル　それは・・・ママのようなルネ姉さんが中々戻ってこないから心配になって。

ルネ　あら。心配してくれたの。ありがとう。お陰で助かったわ。

ラウル　でも・・・慌てて逃げたせいで又ここに戻っちゃった。出るにはそっちしか駄

目だろ。そっちにはあいつらがいるかもしれないし。

オリビエ　いや、きっと他に出口がある筈だ。奥を探そう。

イザーク　ちょっと暗いな。

ルネ　ラウル。なにか明かりを持ってない？

ラウル　これで良ければ。(ペンライトを取り出してオリビエに渡す)どうぞ。

オリビエ　ありがとう。よく気のきく青年だ。よし、行こう。

オリビエ、イザーク、シャルロット、奥へ行く。  
その後が続こうとするルネの手を、ラウルが握って止める。

ラウル ちょっと。

ルネ なぁに？

ラウル 何であんな物騒な状態になったのさ。

ルネ 簡単に言うと、ヒロインと、追いかけてきた悪党と、正義の味方の私達。

ラウル だから？

ルネ ヒロインを守ってあげなくっちゃ。

ラウル あの子がヒロイン？ ママがヒロインじゃなくていいの？

ルネ 勿論私もヒロインよ。

ラウル ここに何しに来たか覚えてる？ ママの方がお姫様にならなきゃいけないんじゃないの？

ルネ 大丈夫。オリビエに対してちゃんとヒロインになってみせるから。それと。  
なに？

ルネ 「ルネ姉さん」。いいわね？

ラウル 分かったよ姉さん。で、うまくいってるの？

ルネ 上々。いい雰囲気よ。

シャルロット、戻ってくる。

シャル

あほう。

ルネ

あら、ごめんなさい。直ぐに行くわ。

ルネ、オリビエ達を追って奥へ。

ラウルも後に続くこうとするが、シャルロットが何か言いたそうに見える  
た為、足を止める。

シャル

ありがとうございます。

ラウル

いいんですよ。あの状況だったら誰だって助けるさ。

シャル

あの。本当に、親子じゃないんですか？

ラウル

親子だよ。

シャル

じゃあなんで隠すの？

ラウル

ちょっと面白い事情がね。

シャル 面白い事情？

ラウル 事によると僕は無事でいられないかもしれない。

シャル ええっ。

ラウル そうだ。よかったら君も協力してくれないかな。

ラウル、シャルロットの手を握る。

シャル ええ。勿論。

シャルロット、強く握り返す。

ラウル よかった。味方ができた。

シャル できる事があったらなんでも言って。

ラウル うん。ありがとう。

ルネの声 ラウル！ シャルロット！

ラウル 行こう。簡単に説明するとね。

シャル ええ。



ラウル、シャルロット、話しながらオリビエ達の後を追う。  
暗転。

第二場

直ぐに明りが点くとロシユが歩き回り、カーラが眺めている。

ロシユ

あいつらどこにいるんだ。

カーラ

少しは落ち着いたらどうですか。

ロシユ

落ち着いていられるか。怖かったんだぞ。本当に怖かったんだ。

カーラ

はいはい。怖かったですね。

ロシユ

カーラ、お前が来てくれて本当に助かった。感謝してるよ。

カーラ

その前に。何故あのような状態になったのが問題と思いますが。ロシユ様？

ロシユ

許して！

カーラ

まだ何も。

ロシユ

お前が僕をロシユ様と呼ぶ時は決まってもものすごく怒っている時だもの。

カーラ

いい？ そもそもこんな所に、

ロシユ

分かった。分かったから。

カーラ

じゃ帰りましょう。

ロシユ

もう。だってまだシャルロットを捕まえてないんだよ。

カーラ ここで帰るのが一番なの。

ロシュ いやだ！ 絶対にあいつらに仕返しするんだ！

カーラ どっちなの。シャルロット？ それとも仕返し？

ロシュ 両方。

カーラ ・・・いい加減、会長にも我慢の限界がきていますよ。

ロシュ 大丈夫。なんだかんだいって、親父は僕に甘いから。

カーラ 物事には限度というものがあります。

ロシュ ・・・じゃこれを最後にする・・・

カーラ その台詞、何度目でしょうね。

ロシュ 命の危険まで感じたんだよ。この仮引き下がったら我が家の名がすたる。

カーラ 引き下がらない方が家名に傷がつくと思いますよ。

ロシュ カーラ？ なんで僕の言う事全て否定するの？

カーラ そんなつもりはありませんが。

ロシュ 厳しい。厳しいよカーラは。君は僕の教育係だろ。

カーラ 今は会長の秘書です。

ロシュ 秘書？ 愛人の間違いないじゃないのかい？ 僕が何も知らないと思っているのかい。給料以外にもお手当をもらってるみたいじゃないか。

カーラ 特別手当の事ですか。

ロシュ 親父から愛人手当をもらってるんだ。中々の遣り手だな。

カーラ そうまで言われたら黙ってはいられません。ご説明しましょう。

ロシュ ほほう。聞いてやろうじゃないか。

カーラ 確かに会長から特別手当を頂いております。でもそれは。

ロシュ それは？

カーラ あなたのお守り代です。

ロシュ はい？

カーラ 今回のような問題を收拾した時に頂いております。お分かりになりますか？

ロシュ それはつまり。

ロシュ つまり？

カーラ ぼうやが問題を起こさなければ出る筈のない特別報酬って事。それが高額になるのは何故なのか。胸に手を当てるべく考えて下さいませ。

ロシュ あんなにもらってるの？

カーラ 明細を盗み見したのね。

ロシュ 仕事の一環だ。

カーラ 経理は首を突っ込むなどあれ程言われているでしょう。会長にばれたら又大目

玉ですよ。

黙っててくれたらこの前見てたバッグ買ってあげるから。

カーラ  
といた口止め料込みの金額です。

商売上手だね。

カーラ  
お買物、楽しみにしています。(深々とおじぎ)

ああ!

何。

カーラ  
つまり僕が馬鹿をしでかした方が君は儲かって寸法なんだ。

気がついたか。

じゃ僕は君にいい事してるんじゃないか。

カーラ  
ええそうですよ! 馬鹿を治して欲しいと願う反面、馬鹿のお陰でサラリーが増える。心底悩んでるのよ! ちょっとはしっかりして、その分サラリーを増額して欲しいものだわ!

バジル、ワルド、戻ってくる。

バジル

ぼっちゃん。地下が意外と広くて。

ワルド 馬鹿!

バジル (ワルドに頭を叩かれる) あ痛!

カーラ 出口はその他にあるの?

ロシュ 奴らはここを通らずには出られない。

カーラ 何故です?

ロシュ 地下からの出口はほとんどが埋められてその奥からしか出てこられない。だから

ここを押さえておけば奴らは出られない。

カーラ この事をご存じなの?

ロシュ 子供の頃何度か来た事あるんだよ。

一同 ええ?

ロシュ それにしてもお前達どういいうつもりだ。直ぐにあいつらを捕まえてくると思っ

たから行かせたのに。

ワルド すみません。

ロシュ もういい。お前ら、そこで廊下を見張ってろ。カーラ。銃を。

カーラ いえ、これは私が。

ロシュ いや、僕が持つ。お前は僕の後ろにいる。

カーラ これ、護身用ですから手放しませんよ? だいたいあなたは銃の扱い下手じゃ

ないの。

いいか、これは作戦だ。

作戦？

あいつらはお前が銃を持ってると思っている筈だ。だからまずお前を抑えようとするだろう。だが実は僕が銃を持っていたらどうだ。

お断りします。

ええっ。ここまで話したら「成程、流石ははロシユ様」って銃を渡すだろ。

流石はロシユ様。

遅い。ワルド。

はい。(バジルの頭を叩く)

あ痛！

向こうの人数は増えてるんですよ。声からして男ね。少なくとも向こうは五人。

こちらは私が帰れば三人。

帰るの？

ですから不利です。

あの、ちょっと。

ここに残っていい事は何も無いと思います。

ロシユ  
カーラ  
ロシユ  
カーラ  
ロシユ  
バジル  
ワルド  
ロシユ  
バジル  
カーラ  
ロシユ  
カーラ  
ロシユ  
カーラ

ワルド 俺ももう帰った方がいいと思います。

バジル ですよねえ。俺もその方がいいと思います。

ロシユ 馬鹿。この俵引き下がったら僕の面子丸つぶれだろうが。

カーラ ではお好きにどうぞ。

ロシユ カーラ。

カーラ ロシユ様の窮地は救いました。でも、まだ手を引かないというのであれば、つきあってられません。

ロシユ せめて。せめて相手に一泡ふかせてから。

カーラ 一泡ふかせてもいい事はありません。

アルマンの声 そうだぞ、ロシユ。

ロシユ 親父？

アルマン、登場。

アルマン 何だその口の聞き方は。

ロシユ ごめんなさいパパ。でもどうしてここに。

アルマン まさかこの城に再び来ようとは。優秀な秘書から報告を受けてな。



ロシュ いつの間に。

カーラ ここに入る前に、念の為に報告をしておきました。

ロシュ 携帯は通じない筈だ。

カーラ 麓からかけたんです。

ロシュ そんな。(小声で) 親父はどこまで知ってるの。

カーラ (小声で) ここに入るところまでです。

ロシュ (小声で) よし！ (小さくガッツポーズ) パパ。僕今日はまだ何も問題的なことはしてないけど。

アルマン ロシュ！

ロシュ はい！

アルマン 私が何も知らないと思っているのか。

ロシュ (小声で) ホントに何も言ってない？

カーラ 今日の事は。でも昨日や一昨日や一昨昨日の事は申しました。

ロシュ (立ち眩み)

アルマン 全く大概にしろ。お前がそんな風だから、母さんが復縁に二の足を踏むんだ。

ロシュ それとこれとは関係ないかと・・・ええ！ パパママと元鞘になるの？

アルマン 今はお前の話だ。甘やかしすぎた。ど話一つとっても目にあまる。

ロシユ カーラ!

カーラ 私は業務をおこなっただけです。勿論、あなたに改心して欲しくてね。  
ロシユ 父さん。きつと誤解が。

アルマン 黙れ。ずっと悩んでいたがようやく腹を決めた。お前の性根を叩き直しやる。  
ロシユ 叩き直すというと?

アルマン お前を海軍に入れる。

一同 え。

カーラ 会長、流石にロシユ様には無理です!

ワルド そうですよ。軍隊、しかもよりによって海軍だなんて。

バジル 屈強な海兵の慰み者になるに決まっていますよ。

ロシユ 父上! どうか、どうかそれだけは! 心を入れ替えて。

アルマン 心を入れ替えるのは貴様だろうが。さ、どうする?

ロシユ 勿論入れ替えます。入れ替えて、真面目に、

アルマン 真面目に?

ロシユ 仕事に打ち込みます。

アルマン よし!

ロシユ よかった・・・

アルマン 仕事の為に海軍で帝王学を学んでこい。

ロシユ ええ！

アルマン お前がたくましく成長して帰る事を私は信じているぞ。

ロシユ そんなあ！

カーラ 会長。どうかお考え直しを。ぼうやにはとても無理ですわ。

アルマン 駄目だ。

カーラ 会長。

アルマン くだい。

アルマン、胸元からロケットを取り出して中のマリアの写真を見る。

アルマン マリア・・・ロシユを立派にしてみせるからな。見ていてくれ。

ロシユ 親父。親父は僕より母さんの方が大事なんだ。

アルマン 何？

ロシユ 僕の事なんかどうでもよくて、只母さんとヨリを戻したいだけなんだ。その為には僕なんかどうでもいいんだ。そうなんだろ？

アルマン この前マリアに会った時な、

ロシュ 会ったんだ。

アルマン 嘆いていたぞ。お前の悪い噂を聞くと。女を追いかけて、無理強いさせ、金にものを言わせ、とにかく、私も聞いて情けなくなった。勿論マリアもだ！

ロシュ そんな・・・

落ち込んでしゃがみ込むロシュ。

慰めるようにその肩に手を置くカーラ。

カーラ ロシュ様。

ロシュ ごめんなさい！

カーラ 今のは怒っているロシュ様じゃありません。

ロシュ よかった・・・

アルマン 知られた事を悔やむより、馬鹿な真似をした事を軍隊生活で反省しろ。おい、

お前達。

二人 はい。

アルマン お前達も同罪だ。一緒に行ってこい。

ワルド どこへ？

アルマン 海軍に決つてとうが！

二人 そんな！

バジル じゃカーラさんは？

カーラ 私も？

アルマン カーラには秘書の仕事がある。

ロシュ そう言って、カーラを狙ってるんじゃないの。

アルマン お前と一緒にするな。

ロシュ 親子だからね。やる事も似てくるんだよ。

アルマン なら尚更お前を叩き直さんといかんな。さあ、帰るぞ。

ロシュ くそっ・・・じゃせめて帰る前にあいつらに一泡ふかせちゃ駄目？

カーラ もうよしましょ。仲間も増えるようだし。

ワルド かっこつけたがりのオリビエはともかくと、車好きのイザークは車を潰されて、

それなりにザマァ見る状態だし。それで手を打ちましょうや。

アルマン ちよっと待て。今イザークと言ったか？ 車好きのイザークと言ったな！

ワルド はい・・・

ロシュ 僕が車を褒めたからってだけで、僕の味方をしてくれたよ。なんだっけ、そう

そう、愛車にボニファスとか名前をつけてた。

アルマン ボニファスだと！

アルマン、外へ飛び出していく。

カーラ 会長？

ロシユ おい、お前達。今の内に逃げよう。

ワルド 逃げるんですか？

ロシユ 海軍に入りたいのか？

ワルド いやです。

ロシユ ほとぼりがさめるまで逃げるんだよ。カーラ、お前は残れ。

カーラ どうしてですか。

ロシユ (かっこつけて) 僕達と一緒に逃げて、わざわざ大変な思いをする事はない。

カーラ ぼうや・・・

ロシユ ほら行くぞお前達。

ロシユ、出て行きかけるが、凄い勢いで戻ってきたアルマンに押されるようにして戻ってくる。

アルマン 車のナンバー！ ボニファス！ イザーク！  
カーラ 会長？

アルマン 遂に見つけたぞイザーク。何という奴だ。恥かしくもなくこの城に入りおって。  
カーラ あの、どうしました？

アルマン カーラ！ その男はどこだ！ どこにいる！

カーラ それが、どこにいるのやら。

アルマン 探し出せ！ 早く！

ロシュ どうしたのパパ。

アルマン 何をしている。さっさとあの男を私の前に連れてこい！

ワルド・バジル は、はいっ！

ロシュ あの、親父。

アルマン お前も早く行け！

ロシュ あ、あの、あの男を連れてきたら、海軍の話、ナシにしてくれる？

アルマン いいだろう。イザークをここに連れてきたら、海軍行きは考えてやる。

ロシュ いや、考えるだけじゃ駄目。

アルマン いいから早く行け！

ロシュ よくないよ。運命がかかってるんだ！

アルマン 分かった！ イザークを連れてきて八つ裂きにすれば、海軍は勘弁してやる！

ロシュ 約束だよ！ よし！ お前ら、行くぞ。

ワルド はい！

バジル え、でも。

ロシュ でもじゃない。行くぞ。それとも海軍行きの方がいいかの。

バジル 行きます。行きますよ。でも。

ワルド なんだ？

バジル 俺、海軍に行ってもいいかな（叩かれ）痛い！

ロシュ 行くぞ！

ロシュ、ワルド、バジル、奥へ行く。

カーラ あの、会長？ あの男と何か。

アルマン 私がどれだけ身もだえしたか。あ奴め、只ではすまんからな……

カーラ 会長……あの男を八つ裂きにしたら、本当にロシュ様の海軍行きはナシに？

アルマン ああ。勿論だ。

カーラ 分かりました。私も行ってきます。



アルマン お前にも特別手当を出してやる。私はここで待つ。

カーラ、奥へ行く。

アルマン ここであったが百年目。二度と変な気を起こさないよう思い知らせてやるぞイザーク。

イザークの声 恨みを買うような覚えはないんだけど。

オリビエ、イザーク、ラウルがロシュ達三人を後ろ手に縛り、くる。その後ろから武器に使ったとおぼしき掃除用具を手にしたルネとシャルロットも入ってくる。

ロシュ パパごめん。

ワルド 会長。申し訳ありません。

アルマン イザーク！ 貴様あっ！

イザーク あのお、お会いするのは初めてだと思うのですが。

アルマン こっちはよく知っている。イザーク！ 許さんぞ貴様。

イザーク 何なんだろ。とにかく、息子さんを放せというのなら、アルマン んなのはどうでもいい！

一同 え？

アルマン まずは貴様と決着をつけてからだ！

ロシュ (泣き出しそうな声で) パバ！

オリビエ 凄いや顔で睨まれてるんだけど。お前何をしたんだ？

イザーク 何も。

オリビエ だってあんなに怒ってるぞ。

イザーク ホントに知らないよ。

ルネ この子は人の恨みを買うような子じゃありませんわ。

ラウル うん。どっちかっていうと人畜無害。

シャル 私も、人様に影響を与えるタイプじゃないと思います。

イザーク ちょっとみんな、それ全然誉めてないよ。

オリビエ と、言われるような男だが、あなたに何をしたのかな。

アルマン いけしゃあしゃあと。何が人畜無害だ。仮面をかぶって他人の大事なものをか

っさらおうとするような奴だぞそいつは！

オリビエ 人は色々な仮面をかぶるとは言うが・・・

イザーク 誤解だ。濡れ衣だよ。おい、何だか知らないけど人を逆恨みしやがって。こっ  
ちには人質がいるんだからな。

アルマン 煮るなり焼くなり好きにしろ。

三人 そんな！

ロシュ パパ助けて。

アルマン 黙ってる。全員海軍で性根を叩き直してもらってこい！

バジル 海軍かぁ……

オリビエ そう言われるとなぁ。僕達としては、無事にここから帰してもらえばそれだ  
けでいいんだけど。

ルネ そうそう。余所様のお宅のお仕置きまでお手伝いする気はなくなってよ。

シャル 私はここで白黒決着をつけてしまいたいわ。

イザーク ええ！

ラウル 暴力はよくないよ、シャルロットさん。

シャル だってこの仮女性の敵を野放しにしておくのは危険すぎます。

ルネ そうねえ。その点では同感だわ。

オリビエ 僕も同感だが、今は僕達自身の安全が優先だと思えますよ。

シャル そうですか……

ラウル　　すごく残念がってない？

オリビエ　いいかい。彼らは海軍入りするようだし、そこで十分、反省するんじゃないかな。知ってるかい？　海軍は厳しいよ本当に。

ロシュ　　パパあ！

オリビエ　という事で、これから海軍に入る有望な青年達を痛い目にあわせるのも忍びないし、大人しく帰らせてもらえないかな？

アルマン　そいつらは好きにするがいい。お前達が出て行くのもかまわん。だが、その男だけは置いていってもらおうか。

イザーク　ええっ。なんで。

アルマン　お前だけは絶対に逃がさん。

イザーク　そう言われても。

オリビエ　イザーク、残るか？

イザーク　いやいやいや、謹んで遠慮するよ。

オリビエ　あちらさんは君が希望。でも僕は君を置いて行くつもりはない。となると、  
ラウル　　どうします？

オリビエ　こちらの紳士のご用件は又改めてにしまして、ここで一気にカタをつけようか。

イザーク カタっていうと？

オリビエ この馬鹿息子が二度とシャルロットにちょっとかいを出さない程度にお仕置をして、みんなで退場する。

ラウル いいですね。そろそろ夕食の時間ですし。

オリビエ おや、君は穩健派かと思ったが。

ラウル 食事は大事にしろと母親の教えで。この後、是非ご招待させて下さい。

オリビエ 喜んで。おいイザーク、これを持っててくれ。

イザーク (繩を受け取る) 了解。

アルマン なんだお前ら。

オリビエ いや、空腹は人を短絡にするね。

アルマン くそっ。お前達に用はないんだ。どけっ。

オリビエ そうはいかないね。

ルネ なんだかこっちが悪者みたい。

シャル そうですね。

カーラの声 その仮悪者でもいいんですよ？

カーラ、現れてシャルロットの背に銃をつきつける。

カーラ 動かないで。

シャル 今度は私？

カーラ ヒロインの役所ね。ロシュ様、ご無事ですか？

ロシュ カーラ！

アルマン よくやったカーラ。特別手当を出してやるぞ。

カーラ ありがとうございます。さて。今日一度目になりますけど、うちのぼろやを放して頂きましょうか。

オリビエ 又この展開か。

ラウル シャルロットさんを放せ！代わりに僕が人質になる！

ルネ ラウル。

カーラ お断りします。人質はかよわい女性の方がいいので。

ルネ じゃ私になるわ。だからシャルロットを放しなさい。

カーラ 絶対お断りします。

ルネ ちょっと。どういう意味よ。

カーラ お互いそこは掘り下げない方がいいと思います。

ルネ いつになったらヒロインになれるのかしら。

カーラ さあ形勢逆転ね。

イザーク どうする？

オリビエ どうするもこうするも、人質をとられているんじゃお手上げだよ。

イザーク 分かったよ。こいつらを放せばいいんだろ。

アルマン さあ覚悟をきめるんだな。

イザーク 僕だけが痛い目にあうの？ ヤだなあ。

オリビエ つきあうよ。

イザーク そりゃあどうも。

ラウル 僕も。

イザーク ラウル。巻き添えにしてすまないね。

ラウル いいんですよ叔父さん。

イザーク それでは……(縄を放す)

ロシユ達三人、アルマンの方へ逃げる。

ロシユ パパ！

アルマン 本当に頼りにならないなお前達は。(ロシユの縄をほどく)

ロシユ あいつら全員痛い目にあわせるからさ。海軍の件考え直してくれない？(ワル

ドとバジルの縄をほどく

アルマン 駄目だ。

ロシュ こうなったらせめてお前達でうさばらししてやる。

オリビエ お手柔らかに。ところで一つ質問があんだけど。

アルマン なんだ。

オリビエ あなたがそうまでしてイザークを憎む理由を教えてもらえないかな。

アルマン 私の女房に手を出したんだ、その男は！

一同 ええええええ！

全員、軽蔑したようにイザークを見る。

イザーク ちょっと待って。

オリビエ なんだイザーク。そんな話を黙ってるなんて。

イザーク ええっ。

ルネ そんな甲斐性があったのね。

シャル 軽蔑します。

ラウル 叔父さん……



イザーク ないないない。人妻に手を出した事なんてないから！

一同 ふうーん。

オリビエ まあ、やってしまったものは仕方ない。

イザーク やってないから。

オリビエ 潔く責任をとってきたまえ。

イザーク 助けてくれよオリビエ。親友じゃないか。

オリビエ 事情が変わった。騎士道に反する。

ラウル 叔父さん。流石に不倫はまずいよね。

イザーク 不倫なんかしてないって。

アルマン そういう理由だ。分かったな、ロシユ。

ロシユ 分かったよ父さん。お前達、いいな。

ワルド はい。

バジル 任せといて下さい。

ロシユ 二度と変な気を起こさないようにしてやる。覚悟しろ。

イザーク、ロシユ達に囲まれる。

イザーク 質問がある。

アルマン なんだ。

イザーク 僕が大人しく殴られたら、みんなは助けてくれるかい？

アルマン お前が二度と女房に手を出さないというのならな。

イザーク 分かった。好きにしろ。オリビエ、後の事は頼んだぞ。

オリビエ そういう君の自己犠牲の精神、尊敬するよ。

マリアの声 私ものですわ。

カーラ 奥様！

マリア、登場。

マリア あなたのそういうところが好きよ、イザーク。

イザーク マリア！

アルマン お前！

ロシュ 母さん！

一同 ああ！

オリビエ そういう事ね。

ルネ 分かり易いわね。

マリア ロシユ、久しぶりに会うというのにその有り様は何なの？ 三人がかりなんて

情けない。

ロシユ いや、これは、父さんが。

マリア 父さんが？

ロシユ 母さんに言い寄る奴をやっつけろって。

マリア あなた！

アルマン はい！

マリア 私達は正式に別れたの。元は夫婦でも赤の他人のあなたにそんな真似される覚

えはないわ。

アルマン そうは言うが。

マリア 私は自由。違いますか？

アルマン それはその・・・

マリア 財産もお分けしました。会社もあなたに譲りました。他にまだ何か必要？

アルマン 違うんだ。私はお前が欲しいだけなんだ。

マリア そう言うわりには、若い女の子に手を出そうとしているようですけど？

アルマン 誰がそんな事を。

ロシュ カーラ。やっぱり親父とできてたのか。

カーラ いいえ。神に誓って。

アルマン そうとも。手を出してなど、

カーラ お声はかけられましたが。私が奥様に申し上げたのは私以外の若い娘達ですわ。

アルマン カーラ！ 雇い主は誰だ。

カーラ 奥様です。

アルマン そうそう。え？

マリア 元々は私の秘書ですからね。あなたと会社を見守ってもらおう為に残ってもらっ

たんです。さてあなた、

アルマン 分かってくれマリア。この城にこんな奴を連れ込むなど、我慢出さな。

マリア ここは代々我一族の所有です。そして今は私のもの。誰を入れようと勝手です。

オリビエ そうなのかイザーク！

イザーク まあ。

オリビエ お前、うまくやっなたあ。

マリア あなたの事も聞いてますよ、ロシュ。随分お行儀が悪いみたいね。やっぱり海

軍で修行した方がいいのかしら。

ロシュ ええっ。

アルマン 私もそう思っていたところなんだ。流石夫婦、考える事は同じだなあ。

マリア ここに来る途中で海軍の知人に連絡を入れました。今夜から行ってきなさい。

ロシユ 今夜？ そんな無茶な！

マリア 善は急げ。荷物は必要ないから身一つで行ってきなさい。言っておくけど、逃げられませんよ？

ロシユ そんなあ。ワルド、お前も来るよな？

ワルド 仕事がありますから。

ロシユ (バジルを見る)

バジル (笑顔で頷く)

ロシユ (露骨にため息)

マリア 安心しなさい。海軍は、有望な若者を何人でも待っているそうですよ？

ワルド そんな。

アルマン 三人とも行ってこい。立派になって戻ってこい。

マリア 何を言ってるんですかアルマン。あなたもですよ。

アルマン うん？ 私も？

マリア はい。

アルマン ハハハハ傑作だなあ。お前がこんな冗談を言うなんてな。

マリア 冗談ではありません。

アルマン おいおい。私の年齢も考えてみる。

マリア 特別に、研修という形で軍に入れてもらえるようお願いしておきました。

アルマン そんな無茶な！ 見てくれこの身体を。内臓脂肪でいっぱいなんだ。血圧も高

いし、頻尿だし、毛は抜けるし、海軍なんか入れられたら死んじまう！

マリア あら、ダイエットにはピッタリだそうよ。

アルマン 会社はどうするんだ。会長の私がいなくて、たちまち会社は困っちゃうぞ！

マリア ご心配なく。あなたがスリムになって戻られるまで、私がみますから。

アルマン マリア。私の想いは君に届かないのか？

マリア 届かないから別れたんですよ？ それにこの状況をご覧なさい。あなたがしっ

かしりしていればロシユもこんな風にならなかつた筈です。

アルマン 私だけのせいじゃないだろう。

マリア 子は親の背を見て育つといひます。私は色目の使い方を見せた覚えはありません。

アルマン さ、まだ何か言う事がありますか？

マリア ある。海軍行きは断る！ 私は社長だ。お前の指図に従う義務はない。

マリア 今でも私が筆頭株主である事をお忘れなく。何なら次の総会で社長をクビにし

てあげましょうか！

会長

アルマン　　マリア。話し合おう。

マリア　　社長をクビになるか。続けたかったら海軍に行くか。どっち！

アルマン　　・・・軍に行って、帰ってきたら、私との事を考えてくれるかい？

マリア　　それはまた別のお話。

アルマン　　駄目か。

マリア　　行ってらっしゃい。立派になって帰ってくるのを楽しみにしてますわ。

アルマン　　マリア・・・

アルマン、救いを求めるようにマリアの手を求めるが、マリアは一步下がってそれを拒絶する。

アルマン　　・・・行くぞ、お前達。

ロシュ達　　はい・・・

ロシュ　　カーラ・・・

カーラ　　ぼうや。私はお帰りをずっとお待ちしてますわ。

ロシュ　　それがせめてもの救いか・・・

アルマン、ロシユ、ワルド、バジル、退場。

イザーク マリア! まさか君のご家族だなんて。

マリア もうとっくの昔に別れてますもの。アルマンの事は気にしないで。皆さん、本  
当にご迷惑をおかけしました。

オリビエ いえ。そうですか。貴女がイザークの恋人ですか。

マリア まあ。そういう事になっているの、イザーク?

イザーク いや、その。

マリア (オリビエに向かってはっきりと) そうなるといい、と思っていますわ。

オリビエ イザーク。ご婦人に恥じをかかせちゃいけないよ。

イザーク 分かっているよ。お前は何も言うな。いいな、お前は一言も口を挟むな。

オリビエ ひどい言われようだな。

マリア お詫びとってはなんですが、宜しければ夕食でもごちそうさせて下さいませ  
んか? 手配してありますので、ここで。

一同 ここ!

ルネ お城で夕食? ロマンチックじゃない。

マリア 表の車も、



イザーク そうだ！ 僕のボニファス！

シャル ごめんなさい、本当に。

イザーク いや。非常事態だったんです。仕方ありません。

マリア 今、修理工場の人を呼んでいます。信頼できる場所ですからきつと大丈夫ですわ。代車も手配していますから。

シャル ありがとうございます。

ラウル よかったね、シャルロットさん。

シャル ええ。でも何だか申し訳ないわ。

マリア 私の息子と元夫のせいですもの。このくらいの事はさせて下さい。さ、では今しばらくお待ち下さいませ。

マリア、通路の奥へいったん去る。

一同、ようやく安心の体で思い思いにくつろぎだす。

ルネ (小声で) イザーク！

イザーク なに？

ルネ (小声) ちょっとこっち。

イザークとルネ、一同から離れて玄関の方へ寄る。

ルネ あの人。あんな大きな息子がいるのね。

イザーク 僕も会ったのは初めてだけどね。

ルネ マリアさん幾つなの？ もう十分おばさんでしょ？ いいの？

イザーク 大丈夫。

ルネ 何が。

イザーク、マリアの去った方を指さしつつニヤリと笑う。

イザーク そこまでおばさんじゃないよ。だって、姉さんと同じ年だもん。

ルネ !

ルネ、きつい顔で睨む。

暗転。

## 第二幕

ラウルとシャルロットがやってくる。

ラウル 豪勢な夕食だったねえ。

シャル ホント。びっくりしちゃった。ね。

ラウル 何？

シャル さっきはありがとう。

ラウル 何が？

シャル 銃の前に身を投げ出してくれて。

ラウル 咄嗟だったから・・・

シャル そうそうできる事じゃないと思う。

ラウル そう言われると照れるよ。

シャル ありがとう。

シャルロット、ラウルの頬にキス。

ラウル あ、いや、て、照れるなあ。

シャル ねえ。皆さんにも何か恩返しをしたいわ。

ラウル いや、そんなに気にしないでいいと思うよ。

シャル ううん。そうはいかないわ。それでね、私、考えたの。あのね。(耳打ち)

ラウル ええっ。それはどうかなあ。

シャル 真剣にやるんじゃないわ。サプライズみたいな感じでやるといいと思うんだけど。

ラウル うーん。

シャル 皆さん凄く大人だもの。乗って下さると思うわ。

ラウル あまり気乗りはしないけど…やってみようか。

シャル よかった。じゃあ、イザークさん達にも協力してもらいましょう。

オリビエ、ワイングラスを片手にやって来る。

オリビエ おお。若人達よ。これはお邪魔かな。

ラウル いいえ。そんな事はありません。

シャル イザークさん達はどちらに？ 私達、お話しする事ができて。

オリビエ　めでたい話かな？

シャル　ええ、とっても。

オリビエ　そう。それは素敵な事だ。まだあちらにいるよ。急いで行くといひ。

シャル　はい。ありがとうございます。行きましょう。

ラウル　うん。失礼します。

ラウルとシャルロット、出て行く。

入れ違いにルネが入ってくる。手にはワインボトルとグラスを入れたバスケットを持っている。

ルネ　あらあら。あの子達ったらすっかり仲良しに。

オリビエ　若い証拠ですね。でもまだ友達以上、恋人未満、といったところでしょうか。

ルネ　シャルロットもいい子だし、ラウルとうまくいくと嬉しいわ。

オリビエ　いや全く。

ルネ　折角ワインを持ってきてあげたのに。

オリビエ　私達で飲みませんか？

ルネ　こんなに？　私、酔ってしまうわ。

オリビエ いいじゃありませんか。こんな賑やかな日だったんです。おおいに酔おうじゃありませんか。

注ぎ、乾杯する。

ルネ おいしい。

オリビエ それにしても賑やかでしたね。

ルネ ちょっとした冒険だったわ。

オリビエ ルネさん。あなたは勇敢な人だ。怯える事なくその時の状況を楽しんでいた。尊敬に値します。

ルネ あらやだ。昔のお転婆さんがでてきたみたい。もうこんな歳なのに。

オリビエ 何を仰います。あなたは十分お若い。そして綺麗だ。

ルネ お上手だ事。いやだ、酔ってきちゃった。

オリビエ 思い出した。

ルネ 何を？

オリビエ ルネさんの車も回収しなければ。これはうっかりしていた。お酒をすすめてはいけませんでしたね。マリアさんをお願いしておいた方がいいかも。

ルネ 車の事はまた明日にでも。それにしても、オリビエさんこそ勇敢でしたわ。どんな時でも毅然としていて。男らしくて素敵。

オリビエ これは照れますね。男は、ご婦人の前では虚勢をはるものですよ。

ルネ イザークを見てご覧なさい。虚勢もへったくれもないわ。

オリビエ 確かに。でも、あれが彼の良さでもあります。

ルネ まあ。

オリビエ 長年の友人ですが、彼には随分助けられていますよ。マリアさんとうまくいくと嬉しいんですが。

ルネ あの二人ならきつと大丈夫。

オリビエ そうですね。浮いた話のない奴でしたから心配してたんですよ。

ルネ そういふオリビエさんは？

オリビエ さんづけは結構。オリビエ、とお呼び下さい。

ルネ じゃあ、オリビエ。

オリビエ はい。

ルネ その調子じゃあ、恋人が沢山いそうね。

オリビエ とんでもない！

ルネ 奥様は？

オリビエ 私は独り身です。

ルネ 独身主義？

オリビエ いいえ。そんなつもりはないのですが、何故かうまくいかなくて。正直、家族の団欒にあこがれる夜もあります。

ルネ そういつ時は、どうなさるの？

オリビエ 友人達が慰めてくれます。あちこちの飲み屋に、飲み友達がいるもので。

オリビエ、ルネ、笑いあう。

オリビエ そういうあなたこそ。こんな時間にこんな所にいて、旦那さんは大丈夫ですか？

ルネ 私も独り身ですの。随分昔に死に別れてしまっ

オリビエ 失礼を。お悔やみ申し上げます。

ルネ ご丁寧に。もう昔の事ですから。

オリビエ そうですか・・・失礼ですがお子さんは。

ルネ ラウルがいますわ。

オリビエ 本当の息子さんのようですね。ラウルくん。

ルネ え？ ええ。小さい頃から面倒を見ますとね。ラウルも「ママ」「ママ」っ



て慕ってくれますし。

オリビエ ラウルくん、素晴らしい子ですね。

ルネ ええ。自慢の子ですわ。

オリビエ 羨ましい。

ルネ 羨ましい？

オリビエ 今日、ラウル君と一緒にいて、息子がいたらこんな感じだろうか、そうだった

なら楽しいだろうな、などと思ったりしました。ハハハ。どうやらカップルの  
中にいて、さみしくなりましたようです。

ルネ ラウルをお気に召しました？

オリビエ できるなら息子にしたいくらいだ。

オリビエ、ルネの手をとってみつめる。

オリビエ 彼は、貴女の弟なのでしょう？ 貴女と一緒にになったら、息子にはできない。

ルネ あの、

ルネ、うろたえてオリビエの手を放す。

オリビエ　ルネさん？

ルネ　あの、私、

オリビエ　どうしました？

ルネ　私、ラウルの事が心配で。

オリビエ　シャルロットさんとの事ですか。

ルネ　え？

オリビエ　確かにあの二人はどうにもじれたい。どうです。私達でなにか力添えをして

あげませんか。もう一押しすれば十分とみえますから、何かこう、それとなく

二人が協力しあえるような事を、

ルネ　成程。共同作業ね。

オリビエ　そうです。何かないかな。

ルネ　思いついた。こういうのはどうかしら。今日ね、人質にとられるのはヒロイン

の役所、って話があったでしょ？

オリビエ　ええ。確かカーラがそんな事を。

ルネ　あれをもう一度やってあげましょうよ。

オリビエ　あれを？

ルネ　私達が、正体を隠してシャルロットさんを人質にとるの。それで隙をみてラウ

ルに助けさせてあげる、っていうのはどう？

オリビエ ルネさん。あなたはお茶目な人だ。

ルネ シャルロットならヒロインの役が十分つとまるわ。

オリビエ ほう！

ルネ 追いかけられるのは美人の証拠、追いかけるのはいい女の証拠、そして助けてもらうのはヒロインの証拠。

オリビエ それは誰の言葉です？

ルネ 私。

二人、顔を見合わせてから笑う。

オリビエ 人質はヒロインの証拠か。いい言葉だ。

ルネ でしょ？

オリビエ それでいくと、今日のイザークもヒロインという事になりますね。

ルネ マリアさんが颯爽としていたからそれもいいんじゃないかしら？

オリビエ 確かに。バランスはとれています。

急に暗くなる。

オリビエ なんだ？ ルネさん、大丈夫ですか？

ルネ 私は大丈夫。どうしたのかしら。あっ。

オリビエ どうしました？

明るくなる。

ルネの後ろに銃を構えたカーラが立っている。

カーラ 動かないで下さい。

オリビエ カーラ？

カーラ この人が大事ですか。

オリビエ 大事だ！

カーラ そうですか。では動かないで下さい。

オリビエ どうしてこんな真似を。

カーラ ロシュ様が海軍行きになりました。

オリビエ アルマンさんもですね。

カーラ そちらはどうでもいいです。

オリビエ 確かに。

カーラ ロシュ様の海軍行きは自業自得かもしれない。ですが、せめて少しでも意趣返しをしなければ腹の虫はおさまりません。

オリビエ そんな。ルネさん、大丈夫ですか。

ルネ 大丈夫。もう何度目かだから、慣れてきたみたい。

オリビエ 呑気だな。必ず助けます。

オリビエ、手を広げて歩み寄る。

カーラ なんの真似ですか。

オリビエ つまりは復讐したいのでしょうか？ ですがあなた一人で何をするつもりです。

カーラ それは。

オリビエ 人質をとっていてもあまり意味はないでしょう。ですから、手っ取り早く。

カーラ 手っ取り早く？

オリビエ 私を撃ちなさい。その代わり、ルネさんやみんなは勘弁してもらえませんか？

ルネ オリビエ……

カーラ いいんですか？

オリビエ 好きな人と引き離されたんです。そのくらいは当然でしょう。幸い、何かあっても私には泣く身内はいませんしね。その点はご安心を。

ルネ 私が泣きます！

オリビエ ありがとうございます、ルネさん。

ルネ 呼び捨てで呼んで下さい。

オリビエ ありがとうございます、ルネ。

カーラ いいんですね。

オリビエ ええ。その前に一言。あ、いや、あなたにではなくルネに。

ルネ はい。

オリビエ もし無事だったら、私とおつきあいして頂けませんか？

ルネ 喜んで。

オリビエ よし。これで心残りはありません。どうぞ。

カーラ 分かりました。ロッシュ様の分、一発だけ撃ちます。じっとしていて下さい。

オリビエ、立ち止まって目を閉じる。

カーラ、じっくり狙って引き金をひく。

発射音、静寂。

オリビエ、目を開いて怪訝な顔。

オリビエ あれ？

カーラ 空砲です。

ルネ オリビエ！

オリビエ ルネ！

イザーク、マリア、通路から出てくる。

その後ろからワインと人数分のグラスを入れたバスケットを持って、

ラウルとシャルロットが出てくる。

イザーク 又自分に酔っちゃって。さぞ気持ちいいだろうねえ。

オリビエ なんだよ一体。

ルネ 先にやられちゃったみたい。

オリビエ え？

マリア おめでとーございます。

ラウル 僕達でやろうと思っただんですけど。

カーラ だって、今更、顔を隠したりしても誰が誰だかバレちゃうじゃありませんか。

だったら最初っから顔が見えても大丈夫な風にするのが一番ですよ。

オリビエ ぼっちゃんの手で恨んでいないんですか？

カーラ 二度と会えない訳じゃありませんし。それに海軍てのは最善の方法ですわ。よく考えたら、ぼっちゃんの手で恨んでおいてあげた。ええ。私、今回の事感謝しています。だから一言お礼を言いに戻ってきて、

ラウル 計画に参加してもらったの。

オリビエ はあ。女は強い。

マリア さ、改めて乾杯しましょうか。

イザーク 何に乾杯するの？

マリア 決まってるじゃありませんか。それぞれの恋人にですよ。

ラウル あ、僕達はまだ・・・

ルネ もう、じれったいわね。若いんだからよけいな事考えずさっさとくっついちゃいなさい。

ラウル ママ！



ラウル、恥ずかしそうにルネを睨む。  
シャルロット、まんざらでもなさそうにラウルに寄り添う。

シャル　しつこい男も消えたわ。もう安心だわ。  
ラウル　うん。そうだね。

ラウルとシャルロット、ワイングラスを配ってワインを注いでまわる。

イザーク　姉さん。もういいだろ。

ルネ　そうね。(オリビエに) ああ、実は、実はね、ラウルは、私の息子なの。  
オリビエ　え？

ルネ　本当は、本当に息子なの。

オリビエ　じゃあイザークは？

ルネ　イザークは本当に弟。

イザーク　そうなんだ。ルネは僕の姉。ラウルはルネの息子で僕の甥。保証するよ。

ルネ、ばつが悪そうにオリビエに歩み寄る。

ルネ 騙していてごめんさい、オリビエ。こんな大きな息子がいて。嫌いになった？  
オリビエ 嫌いに？ そんな馬鹿な！ ラウルが息子だなんて大歓迎さ！

ルネ (嬉しそうに) まあ！

イザーク コブつきは嫌じゃなかったのかな？

オリビエ 君だってコブつきじゃないか。

イザーク 最初から言ったろ？ 僕はコブつきでも。只、あのコブはなあ。

カーラ 立派なコブになって戻ってきますわ。ねえ奥様。

マリア ええ。私の息子ですもの。

ルネ みんな収まる場所に収まって、めでたしめでたしね。

イザーク どうだいオリビエ。人は一人じゃ生きていけないってのが少しでも分かったかい。

オリビエ 冒険の果てに手に入れるもの。それは名誉でも財宝でもない。愛する人だ。よく分かったよ。

一同 (歓声)

カーラ あの・・・私・・・

オリビエ どうしました？

カーラ 私だけ・・・

マリア カーラ？

カーラ 一人なんですけど！

一同 あ。

カーラ ぼっちゃん、早く帰ってきて。(ワインを一気に空け) ワインくらいじゃ酔え

ません。他のお酒にします。

カーラ、退場。

イザーク なんだか悪い事しちゃったかな。

マリア 大丈夫ですよ。そんなに弱い子じゃありませんから。

ルネ それじゃ乾杯しましょ。

ラウル 何に乾杯するの？

ルネ そうねえ・・・

イザーク コブつきに！

ルネ まあ！

マリア 愛するものに！ (イザークに) あなたの場合、車かしら？

イザーク いいや、君さ。

オリビエ この城にってのは。(イザークに)おい、城持ち亭主。古城マニアのオリビエ

さんには、安く貸してくれよ。

一同 (笑う)

ラウル それじゃ、出会いに。

ルネ ヒロインに。

シャル 人質に。

一同 乾杯!

賑やかに騒ぐうちに……

幕